

令和5年度柏原市立歴史資料館等運営協議会

会 議 録

日 時	令和5年6月8日（木） 午後1時30分～3時30分
場 所	柏原市立歴史資料館研修室

会議出席者

委員

綿貫友子（会長）、網 伸也、櫻澤 誠、岡本泰典、中野 武、

山川 薫

欠席 渡辺宏治

事務局

新子寿一（教育長）、桐藤英樹（教育部長）、松田佳世（文化財課長）、山根 航（文化財課課長補佐）、安村俊史（歴史資料館館長）、越智勇介、黒田和希（歴史資料館学芸員）、

1. 開会（13時30分）

進行・山根

2. 新子教育長あいさつ

3. 委嘱状交付

4. 委員紹介

5. 事務局紹介

6. 議事

①令和4年度事業報告

（1）歴史資料館関係 安村報告

（2）横穴管理運営関係 山根報告

[資料参照]

【質疑】

○博物館法の改正について

委員：博物館法が改正されたが、当館の対応に変化はあるのか。

事務局：法改正によって、当館も博物館登録できることになったが、登録が必要かどうか、事務的な負担の増加なども考慮して、他館の対応をみながらじっくり考えていきたいと考えている。

○資料購入について

委員：資料購入費の限られている施設が多いと聞くが、当館の場合はどうなっているか。

事務局：資料購入費の予算は確保できていないが、約10万円の図書購入費によって古書店で販売されている史料を購入することは認められており、昨年度も『河内名所図会』を購入している。

○30周年記念シンポジウムの報告について

委員：30周年記念シンポジウムの成果を記録に残しておくことが必要と思うが、予定はあるか。

事務局：館報での報告を予定しているが、できるだけ詳細に報告することを考えたい。

○史料の写真撮影について

委員：寄託史料の写真撮影は行っているか。

事務局：過去の寄託史料ではできていないものもあるが、最近の寄託史料は、すべて写真撮影し、デジタルデータを残している。

委員：マイクロフィルム撮影は所蔵史料に対して行っているのか。

事務局：写真の永久保存ということを考えて、目録を刊行した史料から順に撮影している。

○資料の寄託について

委員：どのような場合、寄託となるのか。その基準等はあるのか。

事務局：寄託には2とおりある。当館に預けるが家の資料なので所有権だけは残しておきたいという場合と、史料調査の必要性などから1年など期間を限って預り、仮目録作成等の調査を行って返却する場合がある。

委員：その場合、書面を交わしているか。

事務局：先方から寄託申請書を提出してもらい、当方から預り書を発行して預かっている。

○写真のアーカイブ化について

委員：写真の貸し出しが増加しているようだが、写真をアーカイブ化して活用することは考えていないか。

事務局：必要だと考えているが、実現できていない。将来的にはアーカイブ化し、一般にも公開できるようなかたちが理想だと考えている。

○広報について

委員：ホームページも充実してきているようだが、漫画で紹介されたということで、どのような媒体は効果的だと思う。どのような経緯で掲載となったのか。

事務局：「やまとは恋のまほろば」という文春オンラインで提供されている漫画が、単行本として発行されている。史跡高井田横穴の特別公開に来られた作家の方が、コミックの素材にしたいということで掲載されることになった。

委員：著作権の問題もあると思うが、できるだけ紹介したほうがいい。

事務局：ホームページなどでも漫画に掲載されたことを紹介し、市議会でも取り上げられている。反響は大きい。

委員：木津川市が恭仁京の漫画を作成して大きな反響があったようだ。

事務局：当館で作成するのは費用の問題もあってむずかしいと思う。また、漫画にすると、わかりやすい反面、その内容がひとり歩きすることになり、誤った情報を流すことにもなりかねないので注意が必要だと思う。

○入館者数について

委員：新型コロナウイルス感染症の影響がなくなってきたと思うが、4月・5月の入館者数は回復しているか。

事務局：正確には確認していないが、例年程度には回復しているのではないかと。また、5月にマンホールカードを2,000枚配っているため、5月の入館者数は大幅に増加している。

委員：秋季企画展の大和川付け替えの見学予約状況はどうか。

事務局：秋季企画展の団体見学は、8月1日から受け付けることにしている。この3年間、40校、60校、80校と回復しているため、今年度はコロナ前の100校前後に回復してくれることを期待している。

委員：マンホールカードだけを受け取りに来た人も入館者数に含めているのか。

事務局：含めている。

事務局：下水道課から依頼があり、集客につながればということで引き受けることにした。カードを取りに来られた方の2割程度は見学もしていただいているので、新しい来館者の増加に効果があると考えている。

委員：マンホールカードを配っているのは、この施設だけなのか。

事務局：2種類あり、もう1つはリビエールホールで配っていた。

委員：集客につながるなら、いいことではないか。増刷して配布する予定はないのか。

事務局：増刷する予定のようだ。

委員：当館オリジナルのカードを作って、市内の遺跡見学などに関連づけて利用することを考えてはどうか。

事務局：すでに観光ボランティアガイドの団体が柏原市のオリジナルカードを作成しているのだが、ほとんど反響がなかった。ただ今回のカードの反響をみて、当館オリジナルカードの作成も効果があるのではないかという話をしており、今後検討してみたい。

○市内歴史散策のパンフレット等について

委員：市内の文化財をめぐるための適切な散策マップはあるのか。

事務局：現在適切なものがなく、以前に作成したものをコピーしてお渡ししている。昨年度、国分の商店会がデジタルスタンプラリーを実施し、当館も協力した。市内の遺跡などへ行き、GPSでスタンプを集めるというイベントだった。このような手法が可能かどうか、今後考えてみたい。

委員：デジタルにこだわる必要はないと思うので、街歩きのマップはあったほうが良いと思う。

③令和5年度事業計画

(1) 歴史資料館関係 安村報告

(2) 横穴管理運営関係 山根報告

[資料参照]

【質疑】

○資料写真・展示について

委員：資料撮影の際に、赤色のバックを使うのは好ましくないが、今回の展示でも赤色の展示台が使われている。いかがなものか。

事務局：写真撮影はむずかしく、さまざまな条件によってバックの色も変わってくる。展示の場合、当館に限らず赤色バックが多いのは、インパクトが強く、来館者に見栄えがするからである。学芸員の考え方、展示の目的、対象とする来館者、設備などによって変わってくる。それらを考えると、赤色バックが決して悪いとは思わない。写真と展示とは違う。学芸員の考え方次第だと思う。

○高井田山古墳の展示について

委員：高井田山古墳の被葬者が百済の王族だという指摘は、日本の歴史上も非常に重要だと考えるが、少し説明がほしい。

事務局：高井田山古墳は石室の構造や副葬品、埋葬方法などから百済からの渡来人が埋葬されていると考えられる。そのうえで石室規模や副葬品の質から考えると、王族クラスの人物だと考えられる。『日本書紀』にみえる昆支、もしくは昆支一族の人物の可能性を考えている。これについては、韓国の研究者も注目している。昨年度はソウルの漢城百済博物館から、当館と研究・展示などで交流を進めたいと申し出があり、当館も承諾する旨を回答している。11月には館長らが来館され、市長らにも会っていただき、今後交流を進めていくことになっている。来週には公州・扶余の国立博物館の学芸員の方も来られることになっている。

委員：柏原には渡来系氏族の田辺史氏もおり、藤原不比等を養育したとされている。

事務局：田辺史氏は日本の律令国家の成立に大きな役割を果たした氏族であり、柏原の渡来系氏族はたいへん重要である。

委員：渡来系についての展示をシリーズで考えてもらいたい。

事務局：今年度に韓国出張の予算を確保しているので、今後は韓国との交流を積極的に進めていきたいと考えている。

○空調・照明設備工事について

委員：空調・照明設備工事の実施時期はどんな予定か。暑い時期に工事で空調が使えないというようなことがないようにしなければならない。

事務局：工事の詳細はこれからつめていきたい。おそらく12月頃に工事を実施することになると思うが、できるだけ展示や収蔵品に影響が出ないように考えたい。

○大雨による影響について

委員：先日も大雨があったが、横穴等に影響が出ていないか。

事務局：横穴への影響は出ていない。ただ、当館は避難所になっており、その対応は必要になってくる。

委員：天候による横穴への影響も注視してほしい。

○大和川の付け替え学習について

委員：大和川付け替え学習、中学生の職業体験、教職員の研修等でたいへんお世話になっている。今後も対応をお願いしたい。

事務局：大和川の付け替えについては、これまで誤解が多かった。その点を正していくために、今年度は「つけかえしないと決めてから」というテーマでの取り組みを考えている。本市の新任教員は研修で大和川の付け替えについて学んでいる。それ以外にも研修を希望される教員グループが増えている。また副読本の更新の際に、内容の確認を求められることも多くなった。少しずつこれまでの取り組みの効果がでてきていると考えている。

○市民アンケートについて

委員：市民の声を聞くために、来館者へのアンケート等は実施しているか。

事務局：アンケートは、以前は実施していたが、回収率が低いため現在は実施していない。講演会や講座などの際に、できるだけ市民の声を聞くようにしているが、またアンケートの実施も考えてみたい。柏原市民に対するアンケートがあり、本市の歴史や文化財等に対する満足度は、かなり上位にあり、市民の満足度は高いようである。

7. 閉会

(終了 15 時 30 分)